

# ち ひと 読んでみよう 地いきの 人にありがとう

**題材のねらい** 津波から子どもたちの命を守ろうと努力した地域の人々の思いに触れ、地域の人々とのつながりを築こうとする意欲を育む。

**指導にあたって** 非常通路の設置を提案し続けた市議の思いを考えさせる。



## 地いきの 人にありがとう

**岩手県大船渡市の海の近くにある小学校でのお話です。**



**A** 越喜来小学校の子どもたち  
ぼくたちの越喜来小学校は、2011（平成23）年3月11日の大つなみで大きなひがいをうけました。ぼくたちは、ぜん国のみなさんから教え切れないほどのぶつしやおうえんの手紙をいただきました。今までぼくたちが知らなかった人からのあたたかい心づかいにどんなにはげまされたり、元気をいただいたりしたことが、ことばでは言いあらわすことはできません。ほんとうにありがとうございました。

**B** もう一つ「ありがとう」があります。それは、つなみからぼくたちのいのちをまもってくれた、ひなんのときにつかうひじょう通りです。このひじょう通りは、市き会ぎいんをしていた平田さんががいあんしゃになり、地いきの人たちのねがいでかんせいしました。地いきの人たちは、つなみのひがいをけいけんしていたので、「つ

なみが来たときに子どもが1かいに下り、外に出ていたら間に合わない。2かいから直せつ道に出たほうが早いので、ひじょう通りをつけたほうがいい」と、長い間、市におねがいをしてくれました。そのおかげで、校しゃの2かいと道を直せつなくひじょう通りが、かんせいしました。ぼくたちは、できあがったひじょう通りをつかってひなんくんれんをしました。すると、ひじょう通りのおかげでひなんする時間は、6分から3分にみじかくなりました。

そのわずか3か月後に東日本大しんさいがおこりました。つなみは学校の3かいのみこむぐらい、とても大きなものでした。でも、ぼくたちはひなんくんれんのとおりに、ひじょう通りをつかって71人ぜんいんがぶじにひなんすることができました。

ぼくたちのぶじを地いきの人たちがよろこんでくださいました。地いきの人たちのねがいが、ぼくたちのいのちをまもってくれました。ぜんいんがかんしゃの気もちでいっぱいです。



16

17